

横浜音祭り2019 開催結果について

1 開催結果

(1) 来場者数

	2019年		(参考: 前回) 2016年	
	プログラム数	来場者数	プログラム数	来場者数
主催	86 (6)	79,265人	65	52,714人
共催	94 (5)	649,521人	109	1,009,851人
		166,177人		197,521人
		483,344人		812,330人
合計	180 (11)	728,786人	174	1,062,565人

区民まつり除く
区民まつりのみ

※ () は台風等の影響により中止となったプログラム数 (外数)

(2) 市民認知率

52.5% (前回実績 47.4%)

(3) 経済波及効果 (主催・共催事業のみ)

43億3,000万円 (前回実績 35億3,100万円)

(4) パブリシティ効果 (令和元年12月末まで)

17億8,846万円 (前回実績 10億9,800万円)

※メディア露出件数 () は前回実績

総計	テレビ・CATV	ラジオ	新聞・雑誌	WEB
6,415 (3,602)	991 (1,424)	42 (41)	311 (398)	5,071 (1,739)

(5) 来場者アンケートの主な結果

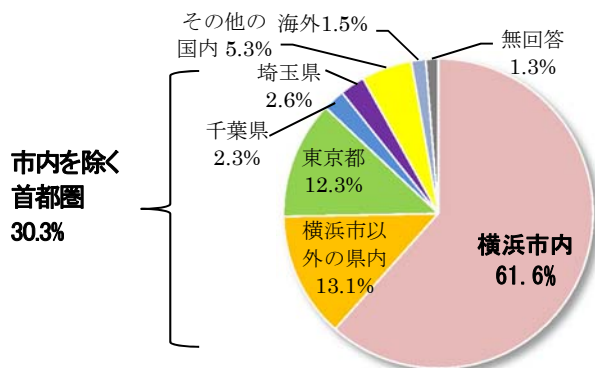
ア 対象

主催・共催プログラムの来場者 7,767件

イ 結果概要

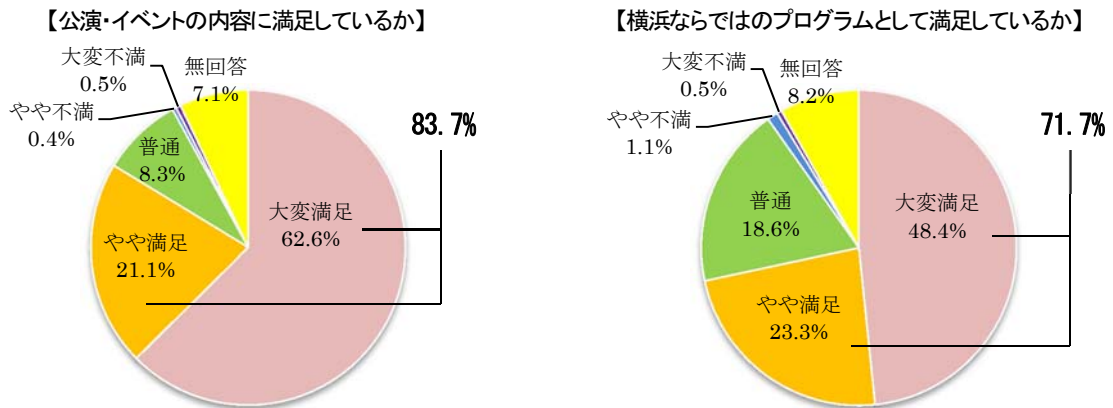
(ア) 居住地

来場者は市内在住が約6割、市内を除く首都圏が3割を占めるなど、近隣自治体からの集客効果があった。



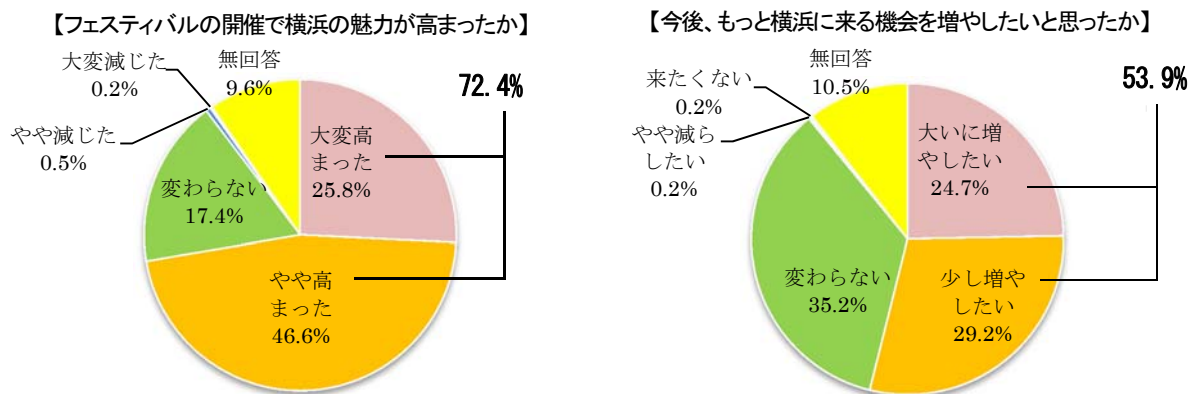
(イ) 満足度・横浜ならではの独自性

来場者の公演・イベントの内容についての満足度は約8割、「横浜ならではのプログラムとして満足した」と約7割の来場者が回答した。



(ウ) 横浜の魅力・来訪意向

「横浜の魅力が高まった」と感じた来場者は約7割、「今後、もっと横浜に来る機会を増やしたい」と感じた来場者は約5割だった。



(6) 共催等イベント主催者アンケートの主な結果

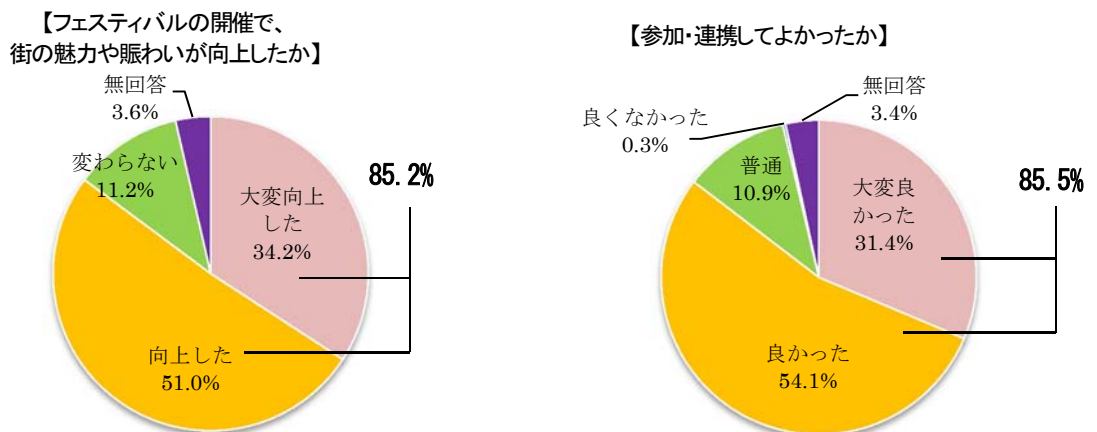
ア 対象

共催プログラム・パートナー事業の主催者 357 件

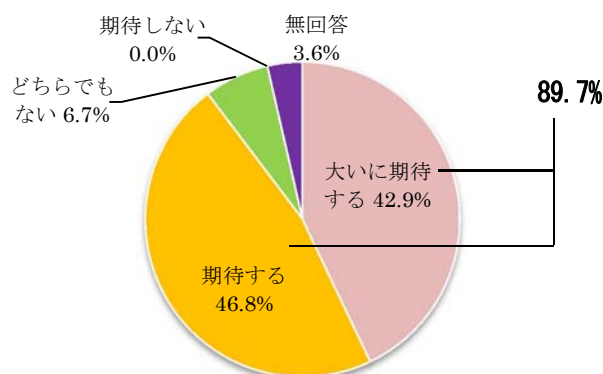
イ 結果概要

「フェスティバルの開催で、街の魅力や賑わいが向上した」、「参加・連携してよかった」という回答がいずれも8割を超えた。

また、「今後もフェスティバルの開催を期待する」と、約9割の主催者が回答した。



【今後も音楽やダンスのフェスティバルの開催を期待するか】



※グラフ中の数値は小数点第2位以下四捨五入表記により、合計が必ずしも100%ではありません。

(7) 参加者の声

ア 街に広がる音プロジェクト（市民参加プログラム）

- (ア) 桜木町駅前に集まった多くのお客さんの前でライブすることができ、お客さんの笑顔がとても嬉しかった。
- (イ) クイーンズスクエアで演奏するのが夢でした。毎年開催してくれると嬉しい。
- (ウ) ラグビーイベントと連携して、ラグビーにちなんだ曲目を演奏することができて楽しかったです。



【街に広がる音プロジェクト】

photo : oono ryusuke

イ 横浜市消防音楽隊による中学校吹奏楽部

ワークショップ&演奏会（次世代育成プログラム）

- (ア) プロの人の音を間近に聴くことができ、自分ももっと練習して、きれいな音が出せるようになりたいと思いました。
- (イ) 自分の知らないところや工夫できるところを、しっかりと理解できる良い機会になりました。
- (ウ) 消防音楽隊との合同演奏では、響きがとてもきれいで、ずっと吹いていたいなという気持ちになりました。



【ワークショップの様子】

photo : 金子愛帆

ウ 分身ロボット「OriHime」プロジェクト（インクルージョンプログラム）

- (ア) 終演後、同じくOriHimeで参加していた隣の席の女の子と分身ロボット同士で「楽しかったね!」と話すこともできました。
- (イ) 音楽を聴覚だけではなく視覚で楽しむということは初めての経験だった。
- (ウ) 葉加瀬太郎さんが弾きながら、私のいる方向に歩いてきました。その時の「今、目が合ったかもしれない。」というドキドキな感覚は、まさにコンサートに行った時に味わうそれでした。



【分身ロボット「OriHime」プロジェクト】

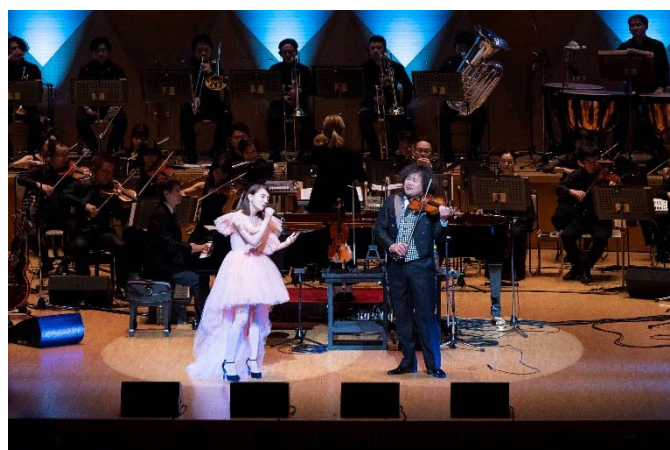
photo : oono ryusuke

【参考】開催概要

事業名	横浜音祭り2019
開催期間	令和元年9月15日(日)～11月15日(金)(コア期間62日間) (プレ期間5月1日(水)～9月14日(土))
ジャンル	クラシック、ジャズ、ポップス、日本伝統音楽などオールジャンル
プログラム数	443(17)プログラム < 主催 86(6)、共催 94(5)、パートナー事業 263(6) > ※()は台風等の影響により中止となったプログラム数(外数)
ディレクター	新井 鷗子
主催	横浜アーツフェスティバル実行委員会
共催	横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
後援	観光庁、神奈川県、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、横浜商工会議所、一般社団法人横浜青年会議所、神奈川新聞社、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、アール・エフ・ラジオ日本、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会
助成	令和元年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
協賛	日産自動車株式会社、三井不動産グループ、三菱地所グループ コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、株式会社 JVC ケンウッド、スターツグループ、株式会社そごう・西武 そごう横浜店、株式会社高島屋 横浜店、株式会社横浜銀行 イーエムティー株式会社、上野トランステック株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、クイーンズスクエア横浜、ケン・コーポレーション グループ、株式会社サカタのタネ、J:COM、凸版印刷株式会社、NEC、原鉄道模型博物館、NTT 東日本、株式会社ヤマハミュージックジャパン
協力	麒麟ビール株式会社、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、東急株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜信用金庫
認証	beyond2020、日本博



【横浜市消防音楽隊による中学校吹奏楽部演奏会の様子】



【クロージングコンサート】